

## NPO法人 国際教育研究会 設立趣意

ブリガム・ヤング大学 渡部正和教授

東京教育大学(現筑波大学)に入学後、休学してBYUに留学。同大でポルトガル語を専攻して学士、修士を修得し、その後、南カリフォルニア大で言語学の博士号を修得する。

BYU日本語学科主任、アジア・中近東系言語学部長、ミドルベリー大学日本語学校長を歴任し、現在BYU、アジア・中近東系言語学部教授。

日本の教育機関は、日本社会を維持するためには公平で優秀にできている。だが、グローバルな時代に入り、国内に通用するだけの人材では国際競争に太刀打ちできなくなってきた。国際教育や英語教育が騒がれている反面、トーフルの結果は、日本は最下位に近い。これらを是正するためにいろいろな法人や公立機関が試行錯誤している。そこで、従来の枠から離れた国際教育を促進するために、有志が協力しあう非営利団体の設立を発起した。

当NPOは、主に英語教育から始まり、真の意味での国際的な人材を養育する目的で発足した。その背景として、現在の若人は、居心地の良い親元や日本を離れたがらない、国外は視野にないため国際的な場や競争になると、それに適した語学力や自信に欠けている現状がある。マスコミの調査では、「夢がない若人」というレッテルさえ貼られている。中国や韓国や米国の若人と比べて、日本の若人は「アンビション」に欠けていると言われる。これは、単に「夢がない」というのではなく、少子化にともない、今までの完全雇用や年功序列が崩壊しつつある社会不安が背景にある。

このような社会に対応するためには、受験に焦点を絞った教育ではなく、もっと広い意味での教育を行い、世界的な知識と外国語を効果的に学び、国際人として実力のある人材を教育すべきだと考える。そのためには、現行の教育の方針やメソッドからかなりラディカルな改革を行い、考え方や方法を変える必要がある。その場合、国や営利団体に頼るのではなく、この「自由」の国の中で同じような志を持つ人々によって、このような教育を実践する試みが大切ではないかと思う。

幸い、国外の協力者や専門家や教育機関との繋がりもあり、そのような機関からのボランティアの外国人留学生や大学教授や賛同者の支援により、ここ数年、海外で使われている効率の高い言語教育法を日本人向けに開発し実践してきた。まだ少数の結果だが、このような考え方と指導を受けた学生の中から、高卒直後に米国やニュージーランドへ留学した者達もいる。さらにより効果を上げるために、イマージョンのプログラムができる施設をこの非営利団体の協力で確保したい。イマージョンによる言語教育は、専門家の間でも評価されている。このような教育を、多くの日本の若人に経験してもらいたい。木の良し悪しは、その果実で知られると言われているように、教育の良し悪しもその果実、つまり学生の質と実力、進歩の度合いによって決まる。上述のような結果が学生の実際の英語能力や国際的な分野での活躍によって評価されるべきだと思う。

教育は利益を目的にしてはできないだろうし、すべきではないと思う。特に少子社会では、教育機関、とりわけ利益目的や税金でまかなわれるものは廃れ、廃校になる一方だと思う。定款に示した目標を達成するには、非営利目的で志を同じくする人々の協力なしには、ほとんど不可能のように思われるが、全くの赤字では法人が成立しないし、教育を続けることができない。このようなことを考慮に、賛同する人々の協力を基に、非営利目的の法人を設立することにした。